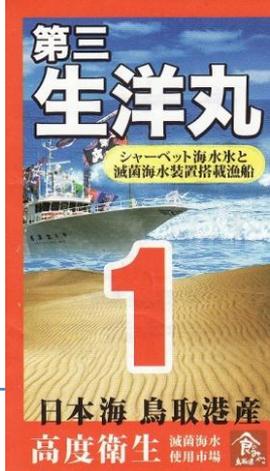


# もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

## 【鳥取県漁業協同組合:賀露地域プロジェクト】

実証期間:平成20年9月1日～平成23年8月31日

大口径プロペラを備えた省エネ船型漁船(沖合底びき網漁船95ト)を用船し、省エネ、省人、省コスト化による生産コストの削減、活魚出荷の増加、滅菌海水及びシャーベット海水氷による高鮮度化などにより生産金額向上等を骨子とする収益性改善の実証事業を実施した。



### 実証項目

#### 【生産に関する事項】

- ①生産コストの削減(燃油)  
(燃油消費量目標5.1%減)
- ②生産コストの削減(人件費)  
(乗組員10名→9名)
- ③漁獲物の高付加価値化

#### 【流通・販売に関する事項】

- ①高鮮度・高衛生製品の出荷及び販路拡大



### 実証結果

#### 【生産に関する事項】

- ①大口径プロペラ、省エネ船型の導入により燃油消費量6%削減  
(3カ年平均)
- ②自動曳網装置の設置により1名分の人件費を削減
- ③・活魚出荷比率の向上による水揚金額の増額  
魚種別活魚出荷率(上位3種)若松葉ガニ:91.2%ヒラメ:84.8%松葉ガニ:73.1%  
・船上での滅菌海水装置とシャーベット海水氷使用による魚価向上  
平均販売単価従来船比9%増(3カ年平均)

#### 【流通・販売に関する事項】

- ①・高鮮度生鮮製品の出荷にあたり船名札、魚箱シール(右上)を作成し貼付するなどのPR活動を実施  
・体長20cm以上のハタハタを「とろはた」として他製品と差別化しPR  
「とろはた」の平均単価は市場平均単価の約3倍(最終年度値)

### 収益性の改善について

上記のとおり実証項目について、一定の成果を得た。その結果、実証期間3年間のうち2年間は水揚金額が減価償却を除く経費を上回り償却前利益を得た。

また、高鮮度出荷製品については仲買人から高い評価を得、地元のみならず遠方から船指定での引き合いがあるなど販路拡大に繋がった。このような省コスト生産と漁獲物の高付加価値化を組み合わせた取り組みにより収益性の改善が実証された。

実証事業終了後は、この取り組みの成果を活用し、本操業を開始した。

今後、当該地域及び沖合底びき網漁業における次世代型モデルとして、普及啓発を図っていく。